

当面のスローガン

- すべての市町村に「本人通知制度」を早期に導入させよう!
- 「人権侵害救済法」の制定をめざそう!
- 悪質な差別事件にたいして徹底的に糾弾しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
中澤敏浩



参加者全員で

主催者を代表して、松井資喜・青年部長から、今年9月21日、22日にかけて、和歌山で第57回全国青年集會がひらかれることとにふれ「青年部の組織が

県連青年部第34回定期大会を4月21日、杭ノ瀬文化会館でひらき、11支部54人の青年・高校生が結集した。

第57回全国青年集會の成功にむけて

県連青年部大会

ある14支部の青年だけではなく、青年部がない支部にたいしても、地元青年がいられば参加させて、和歌山全青を成功させるため、一丸となつてとりくんでいこう」と呼びかけた。

来賓の池田清郎・県連副執行委員、田上武・県共闘会議議長から祝辞を受け、井端尚司・青年部副部長が2012年度の活動報告をおこない、青年の活動が県内全体のものとなつていくように、さらなるとりくみをすすめていこうと訴えた。

活動方針(案)は「人権侵害救済法」の早期制定や狭山差別裁判糾弾闘争、差別糾弾闘争、行政闘争、組織強化拡大に向けてなど、久保智弘・事務局長から提案され参加者全員の拍手で確認した。

最後に、部落差別をはじめあらゆる差別の撤廃と人権確立社会の実現に向けたとりくみを、青年の行動力によって強力にすすめていくことを誓う「大会宣言」が参加者全体の拍手で採決

され、第34回定期大会を終了した。

和歌山県水平社創立90周年の意義

本年5月17日に「和歌山県水平社創立90年」を迎えた。

前年の3月3日の「水平社創立大会」は、差別と迫害のなかで部落の大衆に大きな感動と揺ぎない自信を与えた。当然のこととして燎原の火のごとく広まったのであった。

さて、先達は、この創立大会にさまざまな思いを込めたと思われるが、それは「開催日」の選定にみられる。おりしも、この日は紀州徳川家の祭礼である「和歌祭」の日であった。つまり「徳川にたいする抗議」の意思を表明することで部落解放へのスタートを切ったのであった。大会は、予想をこえる官憲が大動員されるなかで、拍手と歓声は、次々と発する官憲の「弁士中止」の声を打ち消していたという。

さて私たちは、この先達の「人間の尊厳」を希求した意思と行動を確実に受け止めなければならぬ。それが、今を生きる私たちの使命であるといえる。

●部 部落解放
●回 第57回全国青年集會
●とき 2013年
9月21日(土)〜22日(日)
●ところ 和歌山県民文化会館ほか
●日程 6月8日、9日に和歌山市で実行委員会をひらき、詳細を決定する。

頑健

最近、夜の「やむをえない付き合(笑)が極端に減少した。連れ合いに言わせると、原因は「不景気ではなく年」らしいが、そこで必然的にテレビをみる機会が多くなった。そこで、以前も書いたが映画をよく見るのだが、歌番組も結構好きだ。ある番組で、ゲストが人生の転機を迎えたときの思い出の歌というのがあって、みると「松田聖子」や「山口百恵」などであった。自分にとつては「岡林信康」「高石ともや」で、フォーク・ゲリラなんてこともあり、カレッジ・フォークに変わる時代であった。私は、岡林の「チューリップのアップリケ」が好きで、ほんのたまにだがカラオケで歌う。しかし、これが「うっ」とおしいと言われ、まったくウケない(別にウケを狙っている訳ではないが、そんなに迷惑そうにしないで)。時代なんですよ。昔々「歌は世につれ世は歌につれ」という言葉があった。いわゆる世情に反映するということだ。うが、スマホについていけない世代が集まると「今の若いものは」と同義語のように「今の歌は」となる。しかし今も、ちゃんと「歌は世につれ」である。「きやうりばみゆばみゆ(竹村桐子)」は分からなくても「栄光の架け橋(ゆず)」がある。ちなみに、私は連れ合いともども「平原綾香」が好きである。別に、深い意味のない話だが。(S・I)